# リウマチと上手につきあうためにトラブル時の対応・



# 風邪?

带状疮疹?





お薬の対応は?

監修:前島 圭佑 先生

医療法人慈恵会西田病院 リウマチ・膠原病内科 部長

## はじめに

関節リウマチを発症すると関節に痛みや腫れが生じ、 生活の質が著しく低下してしまいます。

かつては治療法が確立されていなかったために 病状が進行することも多かったのですが、

新しい薬の登場により治療が進歩し、

寛解(病状が完全にコントロールされた状態)を目指すことが可能になっています。

しかし、そのためには患者さんご自身による心がけも欠かせません。 病気や薬のことを深く理解する必要はありませんが、

「病気とのつきあい方」については

最低限の知識を身に付けておくことが望まれます。

本シリーズ「リウマチと上手につきあうために」では、 まさにその具体的な方法の一端として、

日常生活での注意点や、

外来受診時の病状の伝え方などをご紹介します。

皆様の生活の質の改善に向けて、

本冊子が少しでもお役に立てたら幸いです。











### 清水菊江さんのプロフィール

64歳。専業主婦。 7年前にリウマチを発症。 現在は抗リウマチ薬で治療中。



















発症することが多いです

低下することで免疫機能が

ストレスなどによって



















肺炎は、

感染症である肺(下気道)の

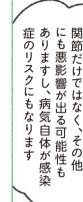
早期発見があるので、あるので、いたることも時に重症に

欠かせません



リウマチは放置できません。

でも、だからといって



しっかり治療しておかないと





こともあり、

難しいことも多いです見定めるのはご自身で

上気道のウイルス感染である

風邪の症状と似ている

肺炎の症状は、

実はそれが問題で、













のどの痛み」といった上気道炎の 方で「くしゃみ、鼻汁、鼻づまり、









これからもリウマチ治療、

おさまって良かったね。

帯状疱疹、

頑張らないとね

まだまだ頑張るわ!!

そうね。



医療機関名